

フットサル競技における記述分析法の正確性の検討

Examination of accuracy about the notational analysis in futsal

玉置研二¹⁾, 堀野博幸²⁾

¹⁾早稲田大学スポーツ科学研究科

²⁾早稲田大学スポーツ科学学術院

Kenji Tamaki¹⁾, Hiroyuki Horino²⁾

¹⁾Graduate school of Sport Sciences, Waseda University

²⁾Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: 記述分析法, Bland-Altman 分析, フットサル

Key words: notational analysis, Bland-Altman analysis, futsal, performance analysis

【抄 録】

フットサルにおけるパフォーマンスの分析方法は、デジタル測定法と記述分析法に分類される。アリーナ競技であるフットサルでは、パンニング映像を用いた記述分析法の正確性を検討した研究は行われていない。そこで本研究では、フットサル試合における記述分析法の正確性を検証することを目的とした。検証では、2次元 DLT 法、目視プロット法、フィールド分割法の3つの分析法を Pearson の積率相関分析、Bland-Altman 分析を用いて比較した。本研究の結果として、目視プロット法とフィールド分割法が指導現場において十分活用可能な正確性を有することが確認された。これにより、固定カメラではない試合映像においても、目視プロット法やフィールド分割法を用いて2次元 DLT 法と同程度の分析が可能となることが確認できた。

スポーツ科学研究, 18, 76-84, 2021年, 受付日:2019年12月25日, 受理日:2021年8月30日

連絡先: 玉置研二 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学研究科

kenji_tamaki@asagi.waseda.jp